

1. はじめに

私たちは至る所で観葉植物を目にします。しかし、「誰が世話しているのか」「いつ水をやったのか」などの疑問をもつことがあります。そこで私たちは、植物とのコミュニケーションをサポートするシステムである「うえきもち」を開発しました。また、植木鉢を通した人と人とのコミュニケーションも支援します。

2. システムの概要

本システムではAndroid OSを搭載した携帯端末を用いて現在の植物の状態を確認します。植物状態は植木鉢に挿し込まれた「うえきもちユニット」により自動的に収集され、図1に示すように画面上で状態を確認することができます。



図1 「うえきもち」の使用例

3. うえきもちユニットの構成

「うえきもちユニット」は植物が置かれている環境値を自動的に測定し、内部のデータベースへ蓄積することで、植物にとって良い状態を評価します。携帯端末は「うえきもちユニット」内のプラグコンピュータとBluetoothによって接続します。また、「うえきもちユニット」の全面に取り付けたARマーカへ携帯端末付属のカメラをかざすことによって、拡張現実として植物の表情を表示します。

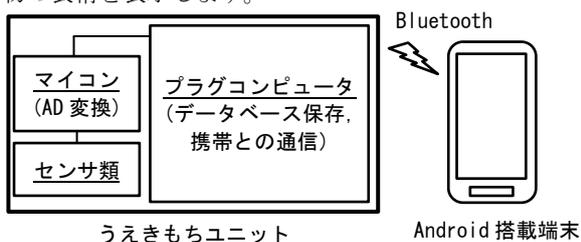


図2 システムの構成

4. システムの機能

4.1 植物とのコミュニケーション

植物の現在の気持ち（水が足りない、寒いなど）をセリフ、表情によってグラフィカルに知ることができます。この情報から水をやったり、日当たりの良いところに移動させることが可能になります。



図3 植物とのコミュニケーション画面

4.2 人とのコミュニケーション

ユーザは植物の写真を撮影し、コメントを付けて「うえきもちユニット」へ保存することができます。このコメントは「うえきもち」を利用する他のユーザからも端末を通して見ることができます。また、保存と同時にtwitterやfacebookなどのSNSへ自動投稿することも可能ですのでより多くの人に植物のお世話状況を知らせ、共有することができます。

このように「うえきもち」によって、至る所にある観葉植物とコミュニケーションをとれるだけでなく、植物が人との間にもコミュニケーションを生むツールとなります。

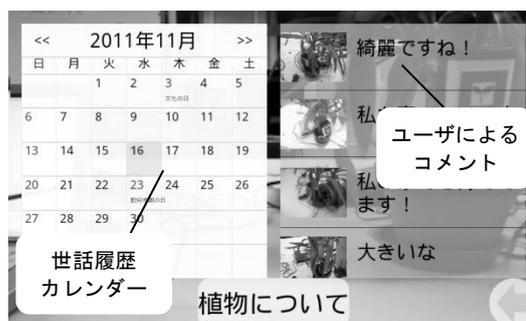


図4 お世話記録の閲覧画面